

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調査

<項目>

第8章 生涯を通じた健康づくりの推進

第4節 病気にならない（未病を治す）取組み

とりまとめ担当課：保健福祉局保健医療部健康増進課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) 「かながわ健康プラン21(第2次)」に基づく県民健康づくり運動の推進

- 県民に対し、より効果的な施策の推進を図るため、有識者や先進的な取組みを行う民間企業、自治体等により検討を行う健康寿命日本一戦略会議を開催した。
- 生活習慣病等の防止を図る「食」「運動」「社会参加」の取組みを社会全体で推進するよう「かながわ未病改善協力制度」（平成29年3月「未病を治すかながわ宣言協力活動登録制度」より名称変更）により、企業等と連携して、「未病を改善する」取組みの普及啓発を図るとともに、県民が「未病を改善する」取組みを実践できる「未病センター」の設置を推進した。
- 県内の各団体・関係機関や市町村とともに健康づくりを推進するために、かながわ健康プラン21推進会議を開催(H28:2回)した。
- かながわ健康プラン21の進捗状況と効果的な推進を図るために神奈川県生活習慣病対策委員会を開催(H28:1回)、かながわ健康プラン21目標評価部会を開催(H28:2回)した。
- かながわ健康プラン21推進会議の構成団体がイベントやセミナー等を開催し、ホームページで情報提供した。
- 民間と行政が一体となって、円滑に計画を推進するため、かながわ健康プラン21地域・職域連携推進部会を開催(H28:1回)した。
- 市町村への情報提供及び連絡調整のため、市町村健康増進事業主管課長会議を開催(H28:2回)するとともに、研修、健康教育を実施した。
- 健康づくりの地域・職域連携推進事業を実施した。

(主な実施状況)

	H28		H25からの累計		備 考
	回数	参加人数	回数	参加人数	
会議	11回	186人	53回	893人	(県と5つの二次医療圏)
研修	8回	603人	42回	2,718人	(県と5つの二次医療圏)
健康教育	52回	2,331人	427回	12,619人	(二次医療圏)

(2) 医食農同源の推進	
	→ 医食農同源の取組みについて検討する医食農同源研究会を開催した。 (H28: 1 回、H25 からの累計 5 回) → 県民等がパソコン等により利用できる漢方診断の症例を活用した未病チェックシートをホームページで公開し、県民が利用できるようにした。 (H28 アクセス件数 128,398 件) → 平成 24 年度から 25 年度に開発した医食農同源レシピを県民の方々に活用していただくため、「かながわの医食農同源レシピ集」を作成した。(H25～H28:計 2,850 部) → 医食農同源の考えや取組みを広く県民に普及啓発するチラシ「医食農」を発行した。 (H25～H28:計 109,910 部)
(3) 食生活習慣の改善に向けた普及啓発の推進	
	→ 特定給食施設等に対して、栄養管理基準を遵守または実施し、利用者に応じた身体状況及び栄養指導等を踏まえた食事の提供が行われるよう、実地調査及び指導・助言を行った。(実地調査及び指導件数 H28 1,489 件 (全 1,388 施設) (栄養管理講習会 H28 37 回、1,509 施設、1,796 名) → 地域特性に応じた栄養・食生活対策を推進するため、食生活に係る地域関係者(医療、福祉職等)を対象とした食生活支援担当者等研修会を実施した。 (食生活支援担当者等研修会 H25～H28:74 回 1,387 名)
(4) 食育の推進	
	→ 「神奈川の食育をすすめる会」参加企業、関係団体、学校など連携し「かながわ食育フェスタ」を開催し、県内の市町村、関係団体、学校・企業などの様々な食育の取組を紹介した。(来場者 H28:3,000 名、H25 からの累計 約 13,100 名) → 生活が乱れがちな若い世代を対象に、料理教室を開催した。 (H28: 2 回、49 名、H25 からの累計 8 回、222 名)
(5) 生活習慣病予防効果を目指す保健活動方法の確立	
	→ 平成 25～27 年度に 3 市町と協働実施したモデル事業により構築した、生活習慣病重症化対策に効果のある「かながわ方式保健指導」を新たに 3 市町(平塚市、大井町、湯河原町)で実施した。(H28 新規実施 3 市町、H25 からの累計 6 市町) ・ 家庭訪問・郵送等による初回保健指導を実施し、継続保健指導(グループ支援)への参加勧奨を行った。 ・ 継続保健指導は月 1 回の頻度で実施し、食生活の改善を中心に、参加者自身が気付き行動を変えるためのグループ継続型の保健指導を行い、生活習慣を改善することで検査値の改善を目指し、実際に参加者の生活習慣の改善等の効果を上げた。 ・ 新たに、血糖値が高い方を対象にしたグループ継続型保健指導を実施した。

2 参考指標の推移

取組 区分	指標 区分	指標名	単位	神奈川県				出典等
				H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 「かながわ健康プラン 21」に基づく県民健康づくり運動の推進

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	「かながわ健康プラン 21 (第 2 次)」及び「未病を治すかながわ宣言」を基に、県民健康づくり運動を着実に推進するため、有識者や関係団体で構成する会議や部会等でより意見・提案をいただき、より効果的な方策について検討を進めるとともに、県民が「未病を改善する」取組みの推進など健康づくりを実践する環境づくりに取り組んだ。
評価理由	取組みは順調に進められており、課題解決に向けて順調に進捗している。
今後の取組みの方向性(29 年度に向けた取組の方向性)	「未病を治すかながわ宣言」に基づき、高齢者等を中心に健康寿命の延伸を図る取組みを進めてきたが、平成 27 年 10 月の「未病サミット神奈川宣言」を受け、全ての世代の方々が未病を自分のこととして考え行動していけるよう、ライフステージに応じた未病対策を展開している。 平成 29 年 3 月 29 日には「かながわ未病改善宣言」を発表し、「未病改善活動」の全面展開を進めていくこととしている。
次期計画に向けた取組の方向性	これまで以上に市町村、企業・団体と連携し、「未病を改善する」取組みが実践できるよう環境づくりを進める。

(2) 医食農同源の推進

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	医食農同源の取組みについて、研究会等で検討を進めるほか、これまでの成果を、「未病チェックシート」の公開、レシピ集やチラシ、セミナー等で県民へ広く普及啓発するとともに、県立保健福祉大学においては、機能性を持つ農林水産物等の研究の一環として、民間企業と連携し、AMF 栄養ケアステーションを開設し、機能性を持つ農林水産物に関する情報提供、栄養診断、医食農同源の考えなどの普及を行った。
評価理由	高機能食品研究及び漢方理解促進についての取組みが順調に進められ、研究成果の活用を効果的に進め、医食農同源の考え方の普及やレシピを県民に活用いただけており、課題解決に向けて順調に進捗している。

今後の取組みの方向性(29年度に向けた取組の方向性)	今後も検討を重ね、引き続き、医食農同源の取組みの推進及び普及啓発を行う。
次期計画に向けた取組の方向性	今後も検討を重ね、引き続き、医食農同源の取組みの推進及び普及啓発を行う。

(3) 食生活習慣の改善に向けた普及啓発の推進

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	地域の関係機関等と連携を図りながら食生活支援を行う専門職種等関係者への研修を企画実施した。
評価理由	医療機関等関係機関との連携のもと、広域的又は専門的な知識及び技術が必要とする栄養指導や、難病患者及び合併症患者等疾病者に対する食生活支援者へ最新の知見や技術の取得できる研修を実施するなど、課題解決に向けて順調に進捗している。また、「未病を改善する」取組みにより、食生活の改善などの普及啓発の強化を図った。
今後の取組みの方向性(29年度に向けた取組の方向性)	今後も関係機関等と連携を取りながら地域の実情に合った研修の企画実施に繋げていく
次期計画に向けた取組の方向性	今後も関係機関等と連携を取りながら地域の実情に合った研修の企画実施に繋げていく。

(4) 食育の推進

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	関係機関・団体と連携した食育にかかる普及啓発を実施し、県民運動としての食育野推進が図られている。
評価理由	神奈川・食育をすすめる会と連携し、食育フェスタや、県内スーパーマーケットで、食育にかかる普及啓発を実施した。 食育に対する県民の関心は高く、課題解決に向けて比較的順調に推移している。
今後の取組みの方向性(29年度に向けた取組の方向性)	今後も様々な主体と連携し、引き続き食育を推進していく。

次期計画に向けた取組の方向性	神奈川県食育推進計画に基づき、様々な主体と連携し、引き続き食育を推進していく。
----------------	---

(5) 生活習慣病予防効果を目指す保健活動方法の確立

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	- 平成 25 年度から 27 年度に実施した継続保健指導の取組みを「かながわ方式保健指導」マニュアルとしてまとめ、県内市町村等に配布した。 「かながわ方式保健指導」の参加者は、体型・血圧・生活習慣において、改善が多かった。
評価理由	継続保健指導をおよそ月 1 回の頻度で実施し、参加者自身が食生活の課題に気づき生活習慣を改善するための保健指導を行った結果、生活習慣を改善し、検査値が改善した方が多い。また、参加に満足した方の割合が高い。
今後の取組みの方向性(29 年度に向けた取組の方向性)	「かながわ方式保健指導」の手法を県内市町村に普及する。
次期計画に向けた取組の方向性	市町村が実施する保健指導を支援する。

4 総合評価

評価	評価理由
A	「未病」の考え方や「未病を改善する」取組みの重要性について、県民が「未病を改善する」取組みを実践できる「未病センター」の設置の促進や食育の推進など、市町村、関係団体、企業等との連携・協力により県民への普及が図られるなど、県民の健康寿命の延伸に向けた取組みは着実に進捗している。

5 特記事項

--